

(8) 中国



中国地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

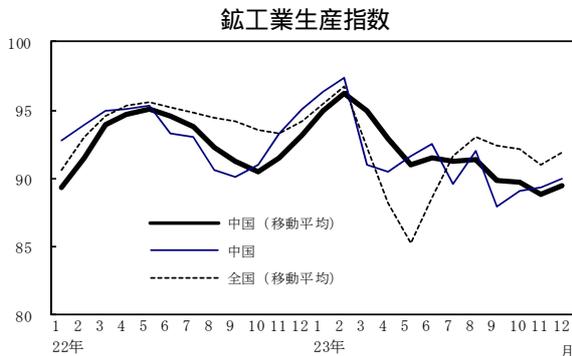
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 11 月)	今回 (平成 24 年 2 月)	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

鉄鋼は、タイ洪水の影響で輸出が落ち込んでいたが、徐々に回復してきたため増加している。化学は、工場の事故の影響で一部製品が減少していることなどから減少している。輸送機械は、震災からの挽回生産により増加している。一般機械は、海外向けの蒸気タービンやプレス用金型が好調で増加している。電子部品・デバイス、海外・国内向けデジタル家電、携帯電話等の生産が落ち込み、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

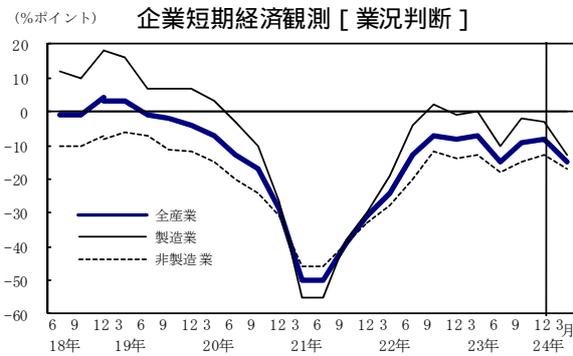
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
鉄鋼	16.5	▲ 6.1	0.6	1.4	▲ 9.1
化学	16.1	▲ 3.9	▲ 3.2	▲ 2.1	▲ 1.1
輸送機械	14.8	6.3	1.7	▲ 1.4	▲ 5.1
一般機械	10.7	0.4	19.2	17.4	▲ 12.7
電子部品・デバイス	7.3	▲ 2.1	▲ 5.5	9.2	—
鉱工業	100.0	▲ 1.7	▲ 0.4	0.8	▲ 3.2

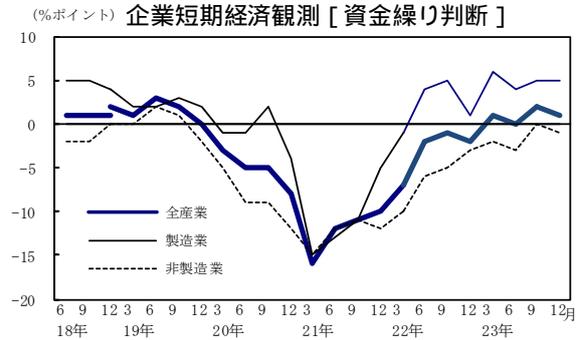
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

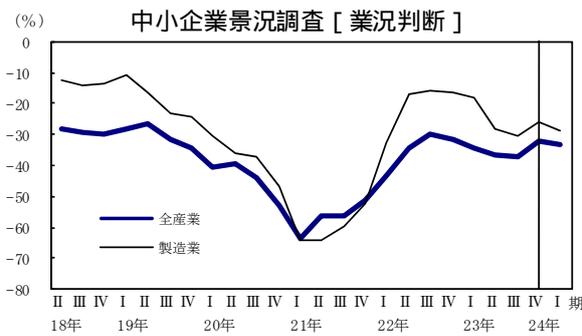
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。24年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。24年I期は見通し。

② 景気ウォッチャー調査 (1月) [企業動向関連 (現状)]

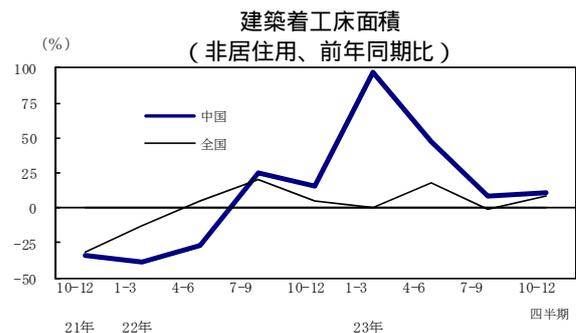
「円高により輸出品の収益力が低下している (化学工業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「円高の影響により、特に北米並びに欧州向けの自社製品の輸出で採算が取れず厳しい状況である (一般機械器具製造業)」など「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	▲ 0.0	9.5 (▲ 2.6)
製造業	8.2	6.3 (▲ 4.0)
非製造業	▲10.6	15.1 (▲ 0.2)

(備考) () は前回 (9月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

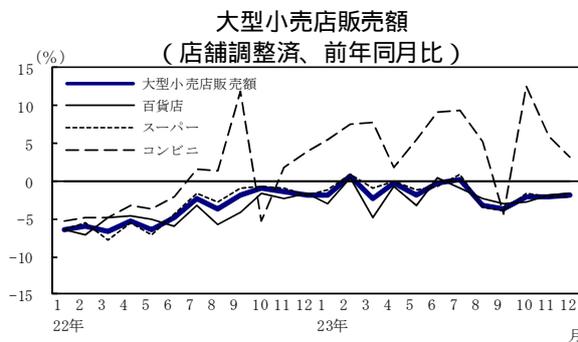
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.9%減、前期比で0.7%増となった。
 百貨店は、10月は、冬物衣料品や高額品などが低調も、家具調度品などが好調だったことから前年比低下幅は縮小した。11月は、冬物衣料品が低調も、お歳暮やハンドバッグなどが好調だったことから前年比低下幅は縮小した。12月は、飲食料品や高額品が低調も、クリスマス商材や気温の低下によりコートなどが好調だったため前年比低下幅は縮小した。
 スーパーは、10月、11月の気温が高く季節商材がふるわなかったが、気温の低下とともに防寒商品等に動きがみられ、クリスマス商材の動きも良かったため、前年比低下幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

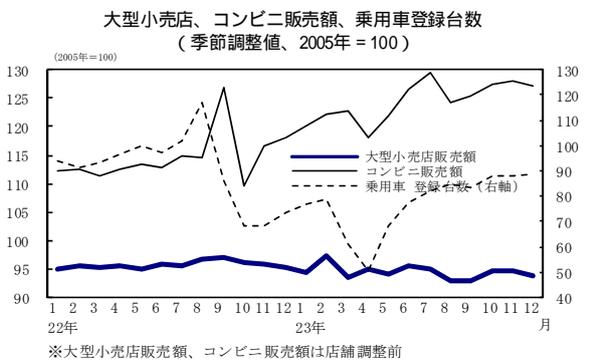
「個人旅行者、一般ビジネス客共に宿泊客数は前年と変わらないが、前年1月の山陰地区は雪害の影響でキャンセル等が多く、例年に比べ減収だったことを考慮すると今年の入込は例年より悪い(都市型ホテル)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



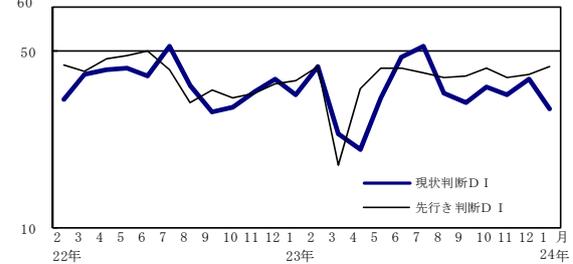
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	▲ 1.2	▲ 0.8	▲ 2.1	▲ 1.9
百貨店(*1)	▲ 2.6	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 2.0
スーパー(*1)	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 1.9
大型小売店(*2)	▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 2.2	▲ 1.4
(季節調整値)(*3)	(▲0.5)	(▲0.3)	(▲1.3)	(0.7)
乗用車(*4)	▲24.0	▲32.1	▲16.2	26.0
(季節調整値)(*4)	(3.5)	(▲9.6)	(27.4)	(6.0)

- (備考) 1. 店舗調整済、前年同期比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期比 (%)
 3. 店舗調整前、前期比 (%)
 4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



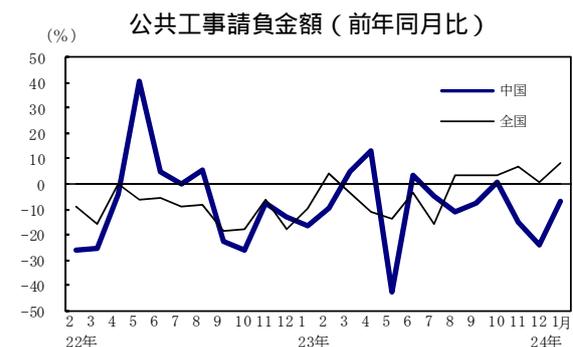
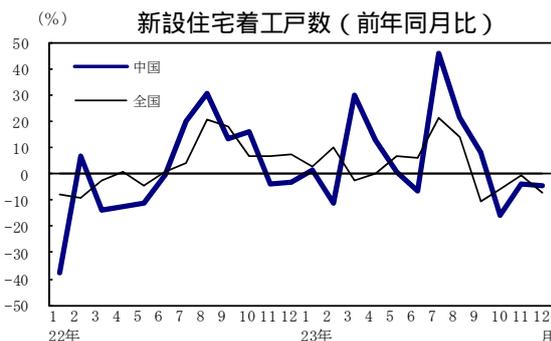
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

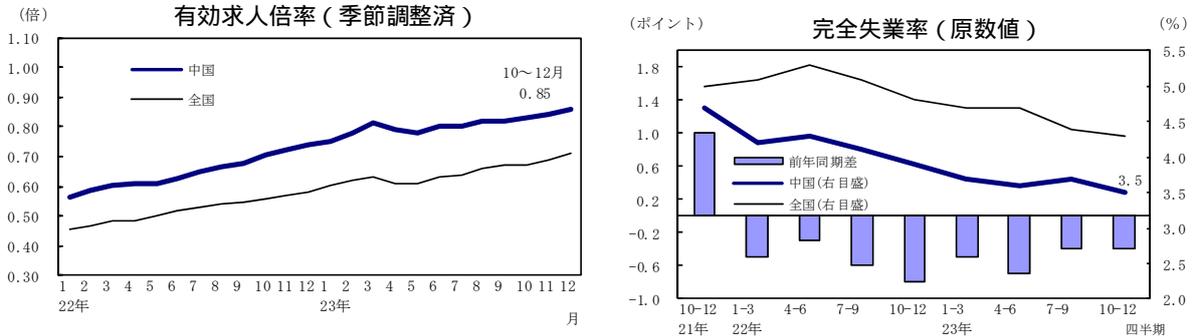


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

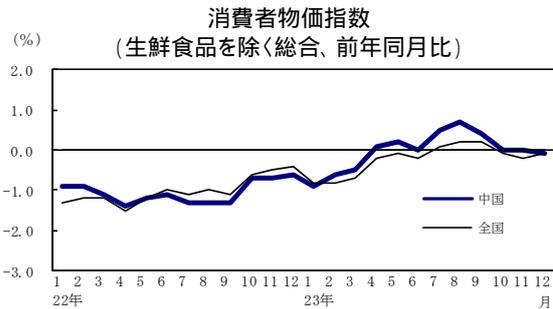
「求人総数としては横ばいが続いております、医療福祉系職種の求人依頼は好調であるが、製造関連職種の求人は低調である。求職者の動きも例年に比べて鈍く、マッチングに苦慮している(人材派遣会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数 (前年比)	114 ▲ 3.4	129 16.2	133 20.9	143 50.5	30 0.0
負債総額 (前年比)	2,614 611.7	746 205.4	202 ▲ 4.9	158 ▲ 6.7	23 ▲ 57.7



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 円高による輸出採算の悪化と欧州の信用不安の問題などから世界的に自動車の販売が低迷している。合理化によるコスト削減も限界に近く、減収減益が継続している(金融業)。

<先行き>

- 春物に移行する時期がかなり遅れているため、春先にも使用できる重衣料が定価で稼動すると単価の上昇が見込める(その他小売店[ショッピングセンター])。

